



できごと

冬の子ども図書研究室講座「ミニブックトークからはじめよう!」15分間で本を紹介する」を開催しました。講師は、水曜コース(12月5日・1月16日)に御前崎市立図書館の川村美穂氏、土曜コース(12月8日・1月19日)に御前崎市教育委員会の吉住幸子氏をそれぞれお招きしました。

ブックトークとは、本を読むきっかけ作り等を目的に、「あるテーマを決めて、そのテーマに沿った本を紹介すること」です。今回は初心者を対象に、小中学校などの朝読書の時間にも行えるような、15分間のミニブックトークについて教えていただきました。

(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

カエルの本 (3月12日から)

「はなさかじい」の本 (3月15日から)

新着図書も常時展示中です。

イベント情報

国立国会図書館 国際子ども図書館

「チェコへの扉 - 子どもの本の世界」

チェコは、児童文学や絵本など子どもの本の宝庫としても知られています。昔話や伝説の本をはじめ、さまざまな作品により、チェコの児童文学の歩みをたどります。併せて、国際子ども図書館所蔵資料を中心に、約280点の資料を展示いたします。

開催期間:平成20年1月26日(土)~9月7日(日)

会期中の休館日:

月曜日、こどもの日を除く国民の祝日・休日、毎月第3水曜日

開催時間:9:00~17:00

会場:東京都台東区上野公園 12-49

国際子ども図書館3階 本のミュージアム

新着資料から

絵本

『きんようびはいつも』



ダン・ヤッカーノ / 作

青山 南 / 訳

ほるぷ出版

2007年12月

金曜日はいつも、「ぼく」は朝早くにパパと二人きりで家を出る。町の様子を眺めて、出会う人に挨拶をする。周りはみんな急ぐけど、ぼくたちは急がない。何匹の犬と出会うか数えたり、手紙をポストに入れたりする。そしてパパと朝ごはんを食べながら、ゆっくりとおしゃべりする。「ぼく」はそんな金曜日が大好きだ。

作者の、息子との体験を基にした物語。なにげない、でもちょっとしたことが親子のささやかな楽しみになることを感じさせ、そんな時間を作りたくなる絵本。【3~4歳から】(渡辺勝)

知識

『ゆきのかたち』



しぜんにタッチ!

高橋 健司 / 監修

片野 隆司 / 写真撮影

ひさかたチャイルド

2007年11月

雪国の方々にとっては日常の風景でも、静岡県に住む私たちにとって、雪や雪景色は憧れの対象。この本は、自然の中で雪が見せてくれるいろいろな“かたち”を美しい写真と分かりやすい解説で紹介している。雪に残る不思議な足跡のかたち、風や、木につもった雪が作り出す楽しいかたち、雪の結晶の美しいかたちなど、子どもでも、ページを追っていけば無理なく理解でき、雪に対する興味を引き出してくれる。読後、早朝の雪の野原に飛び出して行きたくなる、そんな一冊。【3~4歳から】 (牧田)

子ども図書研究室講座 報告

両コースとも、2日間の日程で、講師によるミニブックトークの実演と、ブックトークの概要・方法に関する講義、受講生同士のグループによるブックトークのプログラムの作成・発表と、講師による講評という内容で行われました。

講師による実演のテーマは、「どんな大人になろうかな?」と「ミイラ」でした。講義の初めに実際のブックトークに触れることで、受講生の熱意もぐっと高まったように感じられました。次に、ブックトークについて、その目的や意義などに触れ、その後、実際のブックトークの方法について話されました。その内容を簡単にご報告します。

紹介したい本があって、その本を核にして他の本をつなげていく方法と、テーマが先に決まっています、そのテーマに関連した本を集めていく方法とがありますが、そのどちらも、実際に使う本よりも多く集めることが必要です。

また、できるだけ幅広いジャンル、そして、聞き手の個人差を考慮し、難易度も幅を持たせて本を集めます。その中から、使用する資料を絞り込み、紹介したいページを核として構成を考えます。本から本へと移るときのつながりを工夫し、ぶつ切りにならないようにします。

そして、必ずシナリオを作成します。練習、試演を行い、本番では子どもたちの反応を見ながら臨機応変に進め、反省点があれば、シナリオを見直していくことも必要です。

そのほか、本は正直に紹介し、難しい本であれば、そのことも伝えること、どの本も同じ比重をかけるのではなく、軽重をつけること、また、本を紹介する方法の工夫や、紹介する本の見せ方、付箋の使い方、小道具を用いる場合など、実際に行う際の様々なポイントについてもお話がありました。

その後、受講生同士でグループを作り、グループごとに1つのプログラムを作成しました。この作業は1日目の後半と2日目の前半にわたりました。おおむね1日目にテーマを決め、本選びは途中までとなったグループが多かったようで、2日目までに各自で本を選んだり、構成を考えたりといった宿題を持ち帰ったグループもありました。2日目は、実際のプログラム作成に苦労しながらも、どのグループも無事に1つのプログラムを完成されました。その中から1、2のグループに皆さんの前で実演をしていただき、講評を受けました。

グループは、お名前の五十音順で組んでいただきましたので、恐らくほとんどの方が初対面だったと思われますが、皆さん和気あいあいと、積極的に意見を交換し、テーマを設定し、本を選び、プログラムを作成されていました。

受講生のアンケートには、「私の選書では偏りがあるので、他の人の選書や本の組み立てを知ることができてよかったです。」「もう少し時間があって、全てのグループのブックトークが聞けたらよかったですと思いました。」などの意見や感想が寄せられました。今後の参考とさせていただきます。

所蔵資料から 研究書 『ミニブックトークをどうぞ』



北畑 博子 / 著
連合出版
2004年6月

15~20分、長くても30分くらいまでというブックトークのシナリオを、「自然となかよくしたいとき」「おいしいものがたべたいとき」などのテーマごとに紹介している。また、コラムという形でブックトークの方法についても幾つかのポイントを挙げている。

(鈴木由)